山形県連小会報

第 161 号
発行日　令和３年10月１日
発行者　山形県連合小学校長会
日高伸哉
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ)

県連小　第２回理事会（hybrid オンライン開催）報告

自他の「いのち」を守ることを最優先に

～いのちを預かる校長・いのちを守る経営職として～

日髙伸哉会長あいさつ

１　猛威を振るう新型コロナ禍の中で

本日（８/20）発表の本県における新たな感染者数は53名。昨日は40名でありました。県内新規感染者数が、連日２桁で推移しています。第５波によるコロナ感染拡大が止まらず、県内全域で、「警戒レベル４」となりました。このような状況下、急遽、本日の第2回理事会もオンラインを活用した「ハイブリッド型会議」とし、時間短縮・効率化も視野に入れ、可能な限り、午前中で終了できるよう組み替えをいたしました。急な対応にもかかわらず、ご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない今、理事会のこの場で、「自他のいのちを守ること」が最優先であることを、改めて確認したいと思います。言うまでもなく、私たち233名の校長は、子どもたち一人ひとりの「いのち」は勿論のこと、同僚である教職員の「いのち」をも含めて、自他の「いのち」をしっかり守る覚悟を持って臨んでいます。この緊急事態の状況に鑑み、もう一度「いのちを守る」という原点に立ち返って、あらゆる対策や取組を進めてゆきましょう。

２　第75回県連小研究協議会の運営に感謝

紙上開催となりましたが、「第75回　県連合小学校長会研究協議会」の企画運営をしていただきました「北村山地区小学校長会」の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。北村山地区小学校長会の御尽力により、講演会はオンデマンドによる配信と録画ＤＶＤの制作、また、録画ＤＶＤを添付した密度の濃い研究要項が完成いたしました。一昨年前から周到なご準備をいただいたにもかかわらず、紙上開催となり断腸の思いでありましたが、多くの成果が得られました。重ねて御礼申し上げます。本日の協議では、コロナ禍対応の苦難も含め、臨機応変にご対応いただいて生まれた数々の成果の確認と次期開催への引き継ぎがスムーズになされ、さらに次年度の「研究協議会」の確かで豊かなイメージが浮かび上がればと思います。時短の中ですが活発な議論をお願いいたします。

３　理事会の意義と機能の再確認

理事会は議決機関でありますが、次の３点の意義や機能を併せ持っていると捉えています。

① 小学校教育の振興に寄与するマネジメント
② 連合体の進むべき方向の共通認識に立つ
③ 私たちの、私たちによる、私たちのための校長会運営の要になる

何よりも各地区あっての連合体であり、各地区の「歩みを止めない覚悟」が、今を形づくります。と同時に「連合体」である強みを最大限に生かすため、地区理事として時代の潮流を先読みした「先端的な研修」が望まれます。本日は、短時間になりますが、Society 5.0を見据えたICT活用の実態や方向性を研修いたします。このテーマでの研修は、10月の東北連小理事会でも行います。全連小でも喫緊の重要なテーマとして扱っています。有意義な研修になりますよう、よろしくお願いします。

４　スクールロイヤーからの書籍紹介

管理職の「危機管理研修」の折に、「いじめで誰かが死ぬ前に（平尾潔著：岩崎書店）」という書籍の紹介がありました。平尾氏はスクールロイヤーを務める弁護士で、どの学校でも押さえておくべきポイントが示されています。いのちを預かる校長・いのちを守る経営職として、是非ご一読願いたいと思います。

報　　告

１　全連小・東北連小関係から

(1)　全連小総会（日髙伸哉 会長）

- 第73回研究協議会石川大会は、紙上開催決定。
- 一人一台端末の活用とＩＣＴ教育は全国的な課題。
- 小学校教育充実に係る要望書を関係各省庁に提出。

(2)　東北連小理事会（江川久美子 幹事長）

- 東北連小研究協議会福島大会の紙面開催承認。研究発表内容のＤＶＤを各県地区に配付、活用を。
- 東北連小研究協議会岩手大会の大会要項承認。
- 研修会は､コロナ対応と学びの保障に係る情報交換。

２　県連小各専門委員会から

(1)　対策委員会（金子孝宏 幹事）

- 第１回小中合同対策委員会議（５/10）ミニ研修会実施。少人数学級編制、さんさんプランについて学んだ。
- 各地区の現状を集約し、第２回対策委員会で検討。
- ５月27日付けで『提言』を策定し、会員に配付。10月中に具体的な取組事例を集約。
- 第２回小中合同対策委員会議（７/８）ミニ研修会実施。義務教育費国庫負担制度について学んだ。
- 「お願い・手持ち資料」（案）の文言を確認し、経営懇談会説明原稿を作成。
- 経営懇談会（８/２）：重点事項７項目について懇談。
- 山形県教育委員会教育長及び山形県市町村教育委員会協議会長へ「お願い」の提出（９/２）
- 経営学習会（12/８）：提言内容について検討。

(2)　生徒指導委員会（大谷敦司 理事）

- 第１回生徒指導委員会（５/13）：今年度の方針を確認。生徒指導の目的である自己指導能力の育成。
- 第２回生徒指導委員会（８/５）：子どもたちのいのちを守る。「いのち」には、将来のくらしも含まれる。
- いじめの認知の甘さと対応スキルの両面について考えていく必要がある。
- 「不登校」、保護者との危機感の共有が重要。
- 「児童虐待」、関係機関に適切につなぐ能力が求められる。
- 「携帯電話･インターネットに関わる問題」、ネット利用の陰の部分に学校としてどう対応していくかが問われる。

(3)　研修委員会（舟山　潤 理事）

- 第２回研修委員会（７/20）：第75回県連小研究協議会（北村山地区主管）のふり返りと第76回県連小研究協議会（米沢地区主管）に向けて。
- 東北連小分科会４の研究課題、視点等を、全連小第５分科会に合わせることについて、令和６年度以降の変更を東北連小に要望→【承認】
- 東北連小の担当県割当について、東北連小の分科会構成から発表割当が決まるようにしていくことと、東北連小各分科会の視点１を開催県が担当することへの変更について、引き続き要望していく。
- 東北連小研究協議会の分科会趣旨文、視点文等を第２回研修委員会において検討し、第３の研修委員会で原案完成予定。東北連小第２回教育課程委員会において、大会趣旨文とともに提案。→【了承】

地区校長会訪問

「少数ならでは」のよさを生かして、迅速な情報共有と機動力を一層強化していく

上山地区校長会

上山市小学校長会は、市内５校の小学校の校長が団結し、迅速な情報共有ができ、機動力に優れているという少数ならではのよさを十分に生かし、研修並びに事業運営を行っています。

今年度、校長会における迅速な情報共有や機動力の利点を実感する事例がありました。本市の１つの小学校が新型コロナウイルス感染症に関わって休日を挟んだ対応を迫られましたが、事実の判明･事後の対応･臨時休業･学校再開まで、当該校の校長より他校の校長への迅速かつタイムリーな情報提供がありました。そのため、市内各校では時機を逸することなく、適切な感染防止策をとり、休日を挟んだ場合の手立てを確認することができました。コロナウイルス感染症の状況下での市小学校陸上記録会の実施可否の判断についても、直ちに臨時校長会議を開催し､感染症の状況を見定めつつ､子どもたちの力の向上の観点から十分に協議し、実施の判断をしました。

一方、少数であるがゆえに、情報量や視野の広さの点では課題があります。それらの課題克服のために、中学校長会や教頭会と、合同会議・合同研修会等を実施して連携を強化しています。また、数年前より山形市小学校長会との合同研修会を年２回行っています。上山市の実情をご理解のうえ、ご協力くださっている山形市小学校長会の皆様には、心より感謝しております。

来年度からの４校体制に向け，迅速な情報共有と機動力の強化に一層努めて参ります。

上山市立南小学校　佐　藤　法　子

協　議

1　第75回県連小研究協議会の成果と課題について

（北村山地区担当：工藤幸吉 実行委員長）

- 「今できること」ができた意義は大きい。今後の実施に向けて、詳細な記録の引継ぎが重要となる。
- 理事会には、全体の方向性を確認しつつ、北村山地区校長会の主体性を尊重していただき、納得感・充実感につながった。

〈協　議（抜粋）〉

- 当初予定していた実施方法を柔軟に変更され、最善の解決策を施していただいたことに感謝。（西置賜）
- コロナ禍において実施可能な内容を十分に検討いただき、有意義な研修の機会をいただいた。（山　形）
- コロナ禍における大会運営に感謝。渡辺社長の講演を是非会場でお聞きしたかった。（上　山）
- 担当地区の方々が自分たちでやれたという思いをもてたことがよかった。（東村山）
- これまでのご苦労、経緯等をお聞きし、改めてよい大会をつくっていただいたことに感謝。（西村山）
- 変化する状況に応じて、いかに適切に判断されていったのか、来年度につなげていきたい。（米　沢）
- 参集しての開催、紙上開催のいずれかではなく、実施可能な内容、方法の大会運営に感謝。（東置賜）
- 紙上開催から一歩進めて共に学ぶ場をつくり、新たな方向を示していただいたことに感謝。（田　川）
- 分科会の発表内容も大変充実しており、今後の地区内の研修に生かしていきたい。（飽　海）
- ＤＶＤを含め、既に各分科会の発表資料も有効活用されているのではないか。理事会で方向性を示しつつ、各地区が主体的に動くことが大切であることを確認できた。（会　長）

2　令和４年度「第76回県連小研究協議会」について

（米沢地区担当：舟山　潤 実行委員長）

- 大会実施要項（案）について、全員参集しての開催を基本に検討中。状況に応じて、感染対策や実施方法等の変更を検討していく。
- 副主題については、令和５年度山形大会と同一の副主題に変更。
- 講演会講師は、福田直樹氏（ピアニスト）と黒田三佳氏（里山ソムリエ）を依頼予定。どちらも米沢市に移住され、地域発展に貢献されており、副主題にも合致する。

→【承認】

〈協　議〉

- ヒルズサンピアを会場に予定されているが、広さの点で別会場等の検討もされているのか。（西置賜）

→平成30年以降、ビッグウイングにおける分科会会場確保の課題からヒルズサンピアへ会場が変更されている。全体会については、北村山大会ではコロナ対策も含め、分科会会場との分散も含めて検討されてきている。来年度の会場についてはヒルズサンピアとしつつ、それ以降の大会会場については事務局で検討していくことも考えられる。（会長）

- リモートでの開催ということも話題となったが、機材等を持ち込み、全会員が Zoom 等によりリアルタイムで参加することは可能か。（会　長）

→当日別契約とする必要はあるが、ヒルズサンピアの各会場もリアルタイムでの参加は可能。（事務局）

東置賜地区校長会

“対応”から“創造”へ「変化を創り出す」校長会を目指して

東置賜地区小学校長会は、今年度、南陽市７名、高畠町６名、川西町６名、計19名で組織されており、結成以来、「東置賜は一枚岩」の理念の下、「児童の豊かな人間性の育成」を目指し、真摯な研究実践と教育諸条件の整備に尽力し、学校経営の充実に努めてきた。また、学力や体力の向上、生徒指導の充実をはじめ、学校教育に求められる諸課題に真摯に取り組みながら教職員の資質向上にも努めてきた。

一方で、教育環境や社会情勢の激しい変化の中で、取り組むべき新たな課題も増え、その内容も多岐にわたり、複雑化してきている。今後はより一層、校長同士の連携を密にし、教育諸課題に対し、正に「一枚岩」となって取り組むことが必要かつ重要である。また、コロナ禍を契機とするこれからの学校経営においては、変化への“対応”のみならず、新たな発想による創造的な学校経営、「変化を創り出す力」が求められている。

今年度は、①新型コロナウイルス感染対策と児童の「学び」の保障の両立、②ＩＣＴの活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現、③地域の課題に応える特色ある学校経営等を重点項目に掲げ、具体的実践の情報交流及び校長としての研修・研鑽の場として、胸襟を開きながらも真剣に議論する貴重な機会と捉え、各係校長を中心に運営の充実に努めている。

南陽市立赤湯小学校　**板　垣　　健**

理事研修会議より

テーマ
「タブレット活用の研修及び効果的な活用」について

議長　長谷部　薫　副会長

【話題提供】　上山地区校長会 佐藤 法子 理事（上山市立南小学校）

【上山地区における研修】

1　上山市教育研究所「メディア教育」研究委員会
　○各校１実践以上の授業実践例、校内研修例を収集し、市内教職員に紹介し活用する。
　○ Teams を活用して、研究委員同士が ICT 機器活用についてやり取りをする。⇒分からないこと・困ったことをリアルタイムで共有、解決できる。各校の他教職員にも情報提供できる。

2　上山市教育委員会主催 ICT 活用研修会
　○タブレットの基本操作講習
　○ Teams、e−ライブラリ活用研修

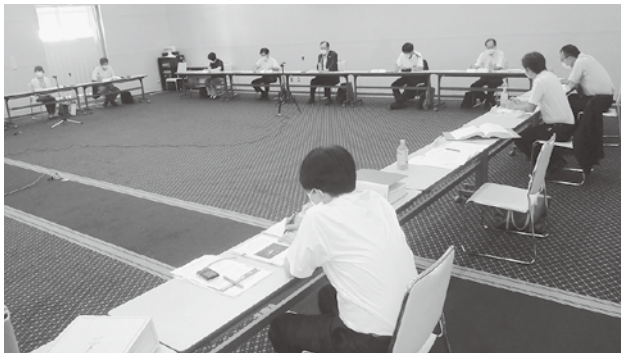
3　市ＩＣＴ支援員を活用しての研修
　○各校年間12回派遣可能（１回あたり４時間）

4　小・中学校校長会における研修
　○テーマ「オンライン授業の進め方」

5　山形県メディア教育研究協議会への参加
　○市小中学校教育研究会理科部、技術・家庭部、道徳部がオンラインで参加

【授業における活用事例】
　○第１学年生活科における実践紹介

【タブレット端末を導入して見えてきたこと】
　○学習の効率化のための導入だが、慣れていないために時間がかかる。不具合も頻繁に起きる。⇔しかし、使わないと使いこなせるようにならない。
　○児童には隙間時間の活用も有効。→短時間で回数を重ねる効果。タイピング練習も。
　○苦手な人、慣れていない職員が一から実施する困難さ。→得意な職員に尋ね、方法を教示してもらうことが効率的。職員同士の情報共有が不可欠。活用頻度や活用スキルの学級による大きな差が生じないことが大切。

【各地区理事から】（抜粋）

- 寒河江小学校では、家庭への持ち帰りも日常的に行い、ドリル学習やソフトの活用、夏季休業中における各家庭との接続確認などを行っている。
- 体制整備も含め、これからの部分が多い。支援員の人数を増員していただいているが、学校数が多いため、各校への派遣回数の確保は難しい状況。支援員の活用方法の理解も学校間に差がある。
- 支援員活用状況は市町によって違いがある。村山市では、中学校区毎に派遣されている。
- 酒田市には支援員は配置されておらず、担当者の研修会を実施し、各校に拡げている。ネットモラルやセキュリティーの確保等の課題についても検討していく必要がある。
- 庄内地区で導入している機器に差があり、支援体制も異なる。保管場所も含めた環境整備や、教員が学び直しを要する等の課題がある。
- 家庭への持ち帰りについて、破損や紛失等に対する対応が課題になっている。
- 活用頻度や活用スキルに学級によって差が生じないようにすることが大切。職員間の差を埋めつつ、活用が有効な場面を検討している段階。
- 教育委員会主催の研修会に参加した各校担当者が、各校で伝達講習等を行っている。支援員配置校における実施内容を校務支援ソフトにより各校に波及させている。
- ＰＴＡの研修会においても、ＧＩＧＡスクール構想に関しては関心が高い。オンラインの陰の部分について説明していくことも大切になる。村山市では、秋以降の持ち返りに向け、ネットワークポリシーを市として整備し、指導した上で持ち帰りを行う予定。全国学調の採点結果をタブレットに入力し、自己の課題の把握等、指導の改善等に活用している。
- タブレットは市の貸与物であり、破損等について弁償していただくことを確認。不具合への対応についても委託業者にお願いしている。
- 25年の学力調査からタブレットで答えることは決まっており、文章の打ち込みは必須。教員の得意・不得意にはそれほど差はない。会議資料のペーパーレス化を図るなど。教員のタブレット活用に対する意識改革を図る必要がある。